

市政ニュース

大学院生による学術研究発表会を開催 学生の意欲的な研究発表に興味津津

12月6日、大学院生による「コウノトリ野生復帰学術研究発表会」を開催しました。

市では、「コウノトリ野生復帰学術研究奨励補助制度」を設け、大学院生が行うコウノトリ野生復帰を基本テーマとした調査・研究活動を支援し、市内で研究成果発表の機会を設けています。

本年度2回目となる今回は、出石地域の田んぼを主なフィールドにした採餌行動に関する研究成果を、2人の学生が昼は豊岡駅通商店街のサンストくらぶ、夜は出石総合支所と、2会場で発表しました。

武田広子さん（東邦大学大学院理学研究科博士課程2回生）は、「放鳥コウノトリの採食生態」として、1日の行動時間の約半分を採餌にあて、うち65%はアメリカザリガニを食べていたという研究報告をしました。

また、前田 了さん（兵庫県立大学大学院環境人間学研究所修士課程1回生）は、「豊岡市で放鳥されたコウノトリとアオサギ・ダイサギの採餌行動の比較」として、主にクチバシの触覚で餌を確認するコウノトリに比べ、視覚で確認するサギの方が捕食率が高く、条件によってその優劣は変化するという研究報告をし、来場者は興味深く聞き入っていました。

今回は、平成20年度補助対象研究の途中経過発表も合わせて行われました。



▲研究発表をする前田さん(左)と武田さん

港歩道橋渡り初め式 地域住民待望の港歩道橋が完成

県により平成16年から着工されていた港歩道橋（港大橋の歩道橋）工事が、12月26日に完成し、渡り初め式が行われました。

円山川河口に架かる港大橋は、豊岡地域の港東地区と港西地区をつなぐ重要な幹線道路です。昭和42年に架橋しましたが、歩道がなく、橋の幅員が狭いため、交通量の増加に伴い、歩行者や自転車通学生が交通事故に遭う危険性が非常に高く、歩道橋の整備が切実な願いとなっていました。

渡り初め式では、テープカットの後、港大橋単独歩道

橋建設促進委員会委員長をはじめとする式典参加者が、気比側から小島側まで歩いて渡り初めをしました。

降雪によりさらに道幅が狭くなる時期を前に念願の歩道橋が完成し、住民の喜びはひとしおでした。



▲渡り初め式でテープカットをする関係者

豊岡市新庁舎建設基本構想を策定 市民検討委員会の報告書を尊重し現在地で整備

市では、新庁舎建設市民検討委員会から提出された検討結果報告書を尊重した上で、豊岡市新庁舎建設基本構想（案）を作成しました。

その後、市民の皆さんの意見を反映するため、12月初旬からハガキなどによる意見募集および市内6会場での市民説明会を実施するとともに、市民検討委員会の意見交換・調整を行い、12月24日「豊岡市新庁舎建設基本構想」を策定しました。

今後、基本構想を具体化させた豊岡市新庁舎建設基本計画を3月末までに策定し、来年度からは、基本設計を行う予定です。

- 〈主な市政の動き〉
- 〔12月〕
- 17日・新庁舎建設基本構想（案）市民説明会（日高農村環境改善センター、18日・出石総合支所、21日・但東総合支所）
 - 20日・豊岡市における幼稚園・保育所のあり方答申内容説明会（市民会館・日高農村環境改善センター、21日・城崎・竹野総合支所、1月10日・但東総合支所・出石農村環境改善センター）
 - 21日・フクノハナ米粉レシピコンテスト実物審査会
 - 24日・新庁舎建設基本構想策定
 - 豊岡市政10大ニュース発表
 - 26日・港歩道橋渡り初め式
 - 市役所仕事納め式
- 〔1月〕
- 4日・但東消防団出初式
 - 5日・市役所仕事始め式
 - 豊岡市賀詞交換会
 - 6日・城崎消防団出初式
 - 10日・豊岡市消防本部消防出初式
 - 11日・豊岡・竹野・出石消防団出初式
 - 豊岡市成人式

円山川流域が「ほんの里100選」に選定

日本の美しい「里」円山川流域を守りましょう

朝日新聞創刊130周年と森林文化協会創立30周年記念事業として選定が進められてきた「ほんの里100選」。その1つに豊岡市の円山川流域が選定され、1月6日に発表されました。

この事業は、「里」の大切さを見つめ直し、未来につなげていくため、人々の暮らしによって育まれてきた健やかで美しい里100カ所を選ぶもので、【1】景観【2】生物多

様性【3】人の営みの3要素を選定基準としています。

応募総数は4,474件、候補地は、実に2,000地点以上を上りました。その中で円山川流域は、市民・団体・企業・行政などが協力して、コウノトリ生息のための湿地や耕作放棄田の修復・保全活動を行っていることが高く評価され、選ばれました。

コウノトリ野生復帰の取組みが日本の「里」のあり方と

して評価を得たことは、実に喜ばしいことです。



▲円山川流域

豊岡市幼保対策審議会の答申内容説明会を開催

広く市民の意見を反映した計画策定を目指して

昨年12月1日、豊岡市幼保対策審議会から将来の豊岡市における幼稚園・保育所のある方にかかる答申を受けました。そして、この内容について、12月20日から1月10日にかけて、市民説明会を開催しました。

説明会は、市内6地域で開催し、合計で265人の出席者があり、認定こども園に関する質問や、通園対策、園児と地域とのつながりなど、多

くの貴重な意見をいただきました。

市では、今後、審議会の答申内容を基に、これらの意見や要望などを参考にしながら、さらに検討を進め、今年8月ごろをめどに、「幼稚園と保育所のあり方の計画」を策定する予定です。

また、市の計画策定の段階で、あらためて市民説明会を開催する予定ですので、皆さん、ぜひ、参加ください。



▲答申内容を説明する豊岡市幼保対策審議会会長の加治佐哲也さん(但東総合支所会場)

中見市長の徒然日記 ⑬

Nスぺ顛末記

NHKスペシャル「医療再建」に出演しました。と言っても、発言は1回だけ。「あれでは辛抱できんかつたんやないですか?」というんな方から言われました。「いつ出るかいつ出るかと待っているうちに、寝てしまうた」という人も。妻も寝ておりました。

6時間の収録時間に対し、放送は1時間48分。しかも、ゲスト3人に加え、勤務医、開業医など30人で議論しましたので、編集ではつさばつさとカットされて、冒頭のようになことになりました。

医師不足に対応して、奈良県が病院間で診療科を集約しようとしたが、利害が対立してできなかった、という映像の後、「但馬では県の養成医師の集約を図って豊岡病院に総合診療部ができた。おかげで救急がかるうじて崩壊せず済んでいること」を話す場面だけが放映されました。

番組だけだと、「2日かかりで東京まで行って、一体何

やったんやろ?」ということになるのですが、実はスタジオではかなり盛り上がりつつありました。先ほどの発言に続き、病院組合で医師奨学金制度を設けていて、すでに1人卒業生が豊岡病院で研修を受けていること、ほかに18人奨学生がいることなどを話したところ、千葉の県立病院長が「但馬の取組みは素晴らしい」と褒めてくれ、別の医師が、「感激した。大変だから来てくれと言われても行く気がしないが、但馬のように地域医療にビジョンを持ってやろうとしている所には、行ってほしいと思った」と発言しました。重苦しい雰囲気の中で、このときばかりはスタジオが活性化しました。

自分たちに自信と誇りを持ちながら夢を実現しようとする姿こそが、人々を引き付けるのだと、改めて感じて帰ってきた次第です。

